

ワックスフラワーからの出火事例

火災概要・原因概要

一般住宅の2階ベランダにて、家人が趣味としているロウの花（ワックスフラワー）を作製するため、ロウの塊を鍋に入れ、カセットコンロに掛けて中火で溶かしていたところ、その場を10数分程度離れたために鍋内のロウが過熱され、ロウ自体が引火温度に達したことにより気化したロウの蒸気がコンロの火に引火し、周りの可燃物等や建物の一部に延焼して火災となったもの。この火災により消火の際、2名の方が軽症を負っています。



※ワックスフラワーの完成品



※ワックスフラワー用のロウを写真のような状態で溶かして使用していた状況。

◎ワックスフラワー用のロウが本当に燃えるのか実験の状況。



※実験開始後約10分の状況

（白煙が多量に発生し鍋内の温度は約260℃）

※着火時の状況

（実験開始から約11分後に着火。鍋内の温度は約285℃）

類似火災の防止対策

今回実施した実験から、ワックスフラワー用のロウはバーナー点火（中火）から約10分～20分程度で約220℃～310℃に達し、気化したロウの蒸気にバーナーの火が引火し着火するということが判明しました。周りに可燃物等があれば延焼拡大する可能性が高く、また消火の際に水を掛けてしまうと、天ぷら油火災と同様に、急激に火炎が拡大し負傷する可能性や火災が延焼拡大する可能性も高いということが判明しました。

ワックスフラワーを安全に作製して頂くために、次のことに注意して下さい。

- ・ロウを溶かしている時はその場を離れず、溶ければ一度火を切る等してください。
- ・温度調節機能が付いたコンロ等を使用し、溶かす際は適正な温度の範囲内で行う。
- ・周りに燃えやすい物等を置かない。万が一のために近くに消火器等を用意しておく。
- ・万が一鍋から火が上がった場合は絶対に水を掛けず、消火器や濡れタオル等で消火する。

*その他：教材・資料・ワックスの外袋に記載されている注意書き等をよく読み行う。

…**火災が発生した場合は、直ぐに消防(119)へ通報してください。**…